

せんとびゅあII待望のオープン

旧東川小学校グラウンド跡地に建設中だった複合施設、せんとびゅあII（鉄筋コンクリート造り一部鉄骨造り平屋建て延べ約2千460平方メートル）が開館オープンしました。

7月7日、松岡市郎町長、佐藤卓也上川総合振興局長、高橋昭典町議会議長、「せんとびゅあ」と命名した田中重美さん（北町3丁目）、町立日本語学校生を代表してベトナムから来たグラマー・ドアンティップ・チャンさんらがテープカットしました。

公共図書館的な機能を有する「ほんの森」では、旧図書室だった文化交流館からの引越し作業で約3カ月間休止していた本の貸し出しもこの日から再開しました。せんとびゅあI（旧称文化芸術交流センター、旧東川小学校舎の「大雪山アーカイブス」「家具・デザインアーカイブス」、写真コレクション）は、装い新たになりました。視聴覚ライブラリー、絵本の読み聞かせに便利な子どもコーナー、閲覧室、



学習室が出来たので、児童、生徒の放課後学習にも最適な場所が出来ました。

各所に休憩スポットも用意しました。庇（ひさし）付きの通路で結んで、せんとびゅあIとの行き来も容易で、東川家具を配して休憩スポットも出来たので、町立日本語学校生と町民との交流、集いの場としての利用も多くなりそうです。

東川ブランドの発信拠点として、町内生産の木工デザイン家具、椅子、東川発信の図書、地元産品の展示即売コーナーも新たに出来ました。

夏の野菜生産者の集い

6月30日、東川町農協野菜集荷場で東川町蔬菜園芸研究会（松家孝志会長）主催の夏の野菜生産者の集いが開かれました。

トマト、ピーマン、長葱（ながねぎ）、養液栽培生産（サンチュ、パセリ、葉物野菜）など11部会の生産者約

ハワイの少年団が東川で初のサッカー交流

7月3日から同月11日まで、8泊9日間にわたって、米国ハワイ州のサッカー少年団が東川町に初来町し、地元の東川サッカースポーツ少年団、コンサドーレJrチームなどと交流試合を行いました。



12歳児で構成している「ハワイ・スラマーズFC06ボーイズ」と家族約50人が来町しました。一行は週末の2日間、旭川市内のサッカー少年団5チーム、東川サッカー少年団とコンサドーレ東川（U-12）の混成チームとゆめ公園サッカー場で交流大会を行いました。ハワイチームは中盤のパスとボール回しが上手で、個人技も秀でていて見習うべき

100人が参加して夏野菜生産の繁忙期に入る前のひとときを楽しみました。

6月の日照不足に伴う天候不順で今年は生育が遅れ気味。病害虫にも弱くなっているとの指摘が出

は初めて」と充実した体験だったよう。交流の架け橋となったのは、コンサドーレ旭川コーチの松山育司さん（59）。20代のころ、ハワイで語学留学していましたが、ホームステイで親密になった一家の五女が今回来町したハワイチームのコーチ、二女の息子が中心選手として活躍していることが縁となつて来町が実現しました。



され、樽井功組合長は「一日も早い天気回復を」とあいさつしていました。その後、7月早々には大雨被害にも見舞われ、生産は遅れ気味です。

出荷を取り扱う生果物卸会社の役員からも出席して生産者と交流を深めました。